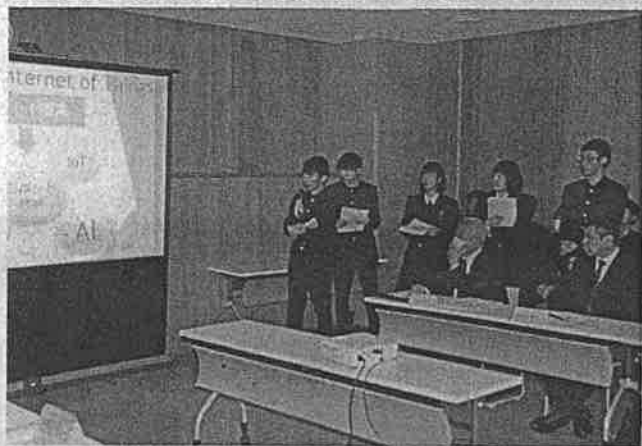


火力発電は必要不可欠



能代高生が地域課題解決に向け
学習成果を発表(能代市役所で)

能代高1年生

地域課題解決型プロジェクト学習

再エネと組み合わせ

探求活動
の発表会
スマート農業への提言

能代市の能代高の1年生たちがグループごとに地域課題解決に向けて調べた学習成果の発表会が先月28日、市役所で開かれた。石炭火力の必要性や風力発電の展望、情報通信技術などを活用したスマート農業によるイメージ改革など地域に根差したテーマを高校生ならではの視点でリポートした。人口減少問題などを話し合う市まち・ひと・しごと創生総合戦略会議で発表した。

地域社会が抱える課題に興味・関心を持たせ、問題意識と解決意識を養うことなどが目的。地域課題解決型プロジェクト学習として、テーマ別に5班に分かれて探求活動に取り組んだ。

「能代に火力が必要か」とこれからの能代の発電をテーマにしたグループは、石炭火力は二酸化炭素を排出するため環境に悪く、作られた電力も県内であまり使われていないという予想から

「秋田にはデメリットしかない」「能代に火力発電所はほしくないのでは」と大胆な仮説を立てた。

「必要不可欠」と結論付けた。新たな課題として石炭は資源に限られるため「石炭火力に依存しては駄目。再エネを活用すべき」と提案。望ましい電源構成(ベストミックス)とするには風力発電が重要になるとし、「1年間を通して安定した風が吹く能代は適地。産業復興で地元が活性化し、雇用が増加しメンテナン

「農業のイメージ改革」を広げるスマート農業へのグループは、スマート農業で高齢農家の負担が減り、若者に魅力のある職業に変わるといふ仮説を立てた。スマート農業のメリットに▽農業の効率化と省力化▽生産履歴情報の記録で商品の信頼性が高まる▽利益を得やすい▽人材育成が容易

要——を挙げた。まとめでは若者、高齢者ともに利用可能な機械があるため農業の効率化が図られ、作業者による品質差がなく、誰でも簡単に就農できるとした。今後の農業に必要なこととして▽荒地地の管理▽若者が農業に接する機会を増やす▽機械の貸し出し——を挙げた。

このほか商店街、介護職、移住定住をテーマに論を展開した。